

令和元年度県政モニターアンケート調査結果の概要

1 調査概要

- (1) 調査名称 みどりの保全と創造に関する調査
- (2) 調査時期 令和元年7月9日～令和元年7月23日
- (3) 調査対象 県内在住の15歳以上の県政モニター319名
- (4) 調査方法 インターネット及び郵送
- (5) 回収状況 265名/319名=83.1%
- (6) 回答者内訳 性別：男性 125名、女性 140名
年代別：30代以下 74名、40～50代 79名、60代以上 112名
- (7) 調査内容

問	アンケート内容
1	みどりの役割について
2	緑化の推進とみどりの保全が必要な場所について
3	みどりの活用について
4	県や市町が実施すべき施策について
5	緑化活動を進めるための県や市町の役割について
6	手入れが行き届かない森林の整備について
7	地球温暖化防止に貢献する木材利用について
8	県産木材の利用について
9	
10	中山間地域の活性化林業の担い手の確保について
11	緑化活動への参加について
12	森林ボランティア活動への関心について

【参考】前回・前々回調査との比較

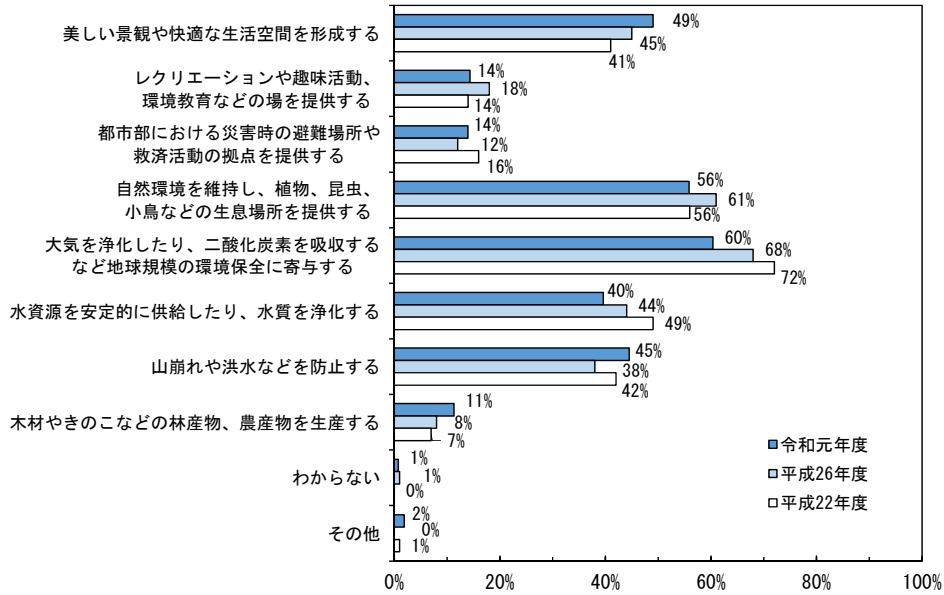
区分		平成 22 年度	平成 26 年度	令和元年度
調査時期		H22.7.22～8.4	H26.7.18～8.1	R1.7.9～7.23
調査対象		395名	254名	319名
調査方法		インターネット・郵送	インターネット・郵送	インターネット・郵送
回収状況		79.5% (314名/395名)	89.0% (226名/254名)	83.1% (265名/319名)
回答者内訳 (性別)	男性	114名	76名	125名
	女性	200名	150名	140名
回答者内訳 (年代別)	30代以下	88名	79名	74名
	40～50代	127名	81名	79名
	60代以上	89名	66名	112名
	年齢不明	10名	—	—

2 調査結果

(1) みどりの役割について

(特に重要と思うものを、10の答えの中から3つまで選択)

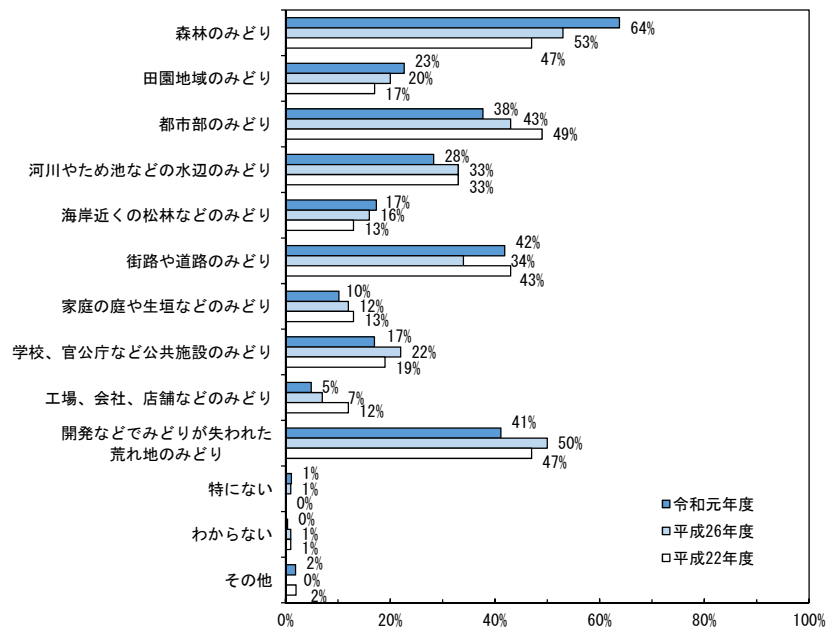
「大気を浄化したり、二酸化炭素を吸収するなど地球規模の環境保全に寄与する」と答えた方が最も多く(60%)、次いで「自然環境を維持し、植物、昆虫、小鳥などの生息場所を提供する」(56%)、「美しい景観や快適な生活空間を形成する」(49%)、「山崩れや洪水などを防止する」(45%)、「水資源を安定的に供給したり、水質を浄化する」(40%)の順となっている。いずれの調査時も、この5項目を選択する割合は高い。



(2) 緑化の推進とみどりの保全が必要な場所について

(緑化・保全が必要と思う場所を、13の答えの中から3つまで選択)

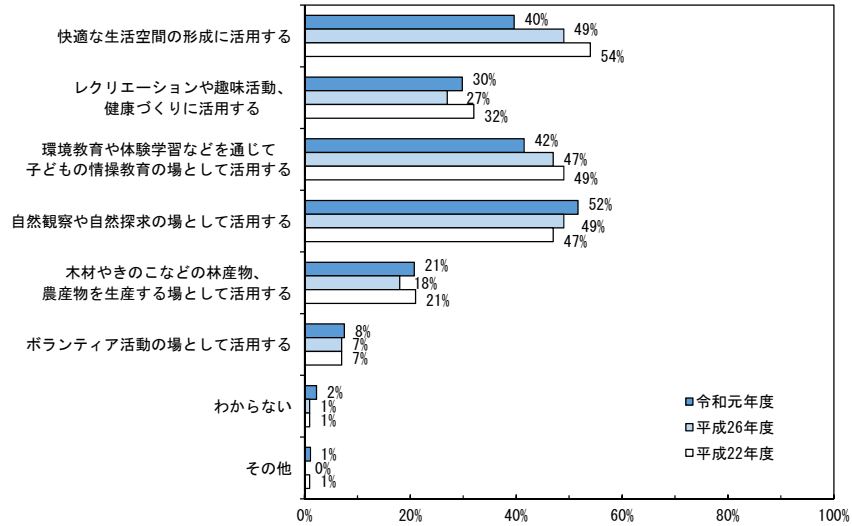
「森林のみどり」と答えた方が最も多く(64%)、次いで「街路や道路のみどり」(42%)、「開発などでみどりが失われた荒地のみどり」(41%)、「都市部のみどり」(38%)の順となっている。いずれの調査時も、この4項目を選択する割合は高い。



(3) みどりの活用について

(生活の中にみどりをどのように取り入れたらよいと思うかを、8つの答えの中から2つまで選択)

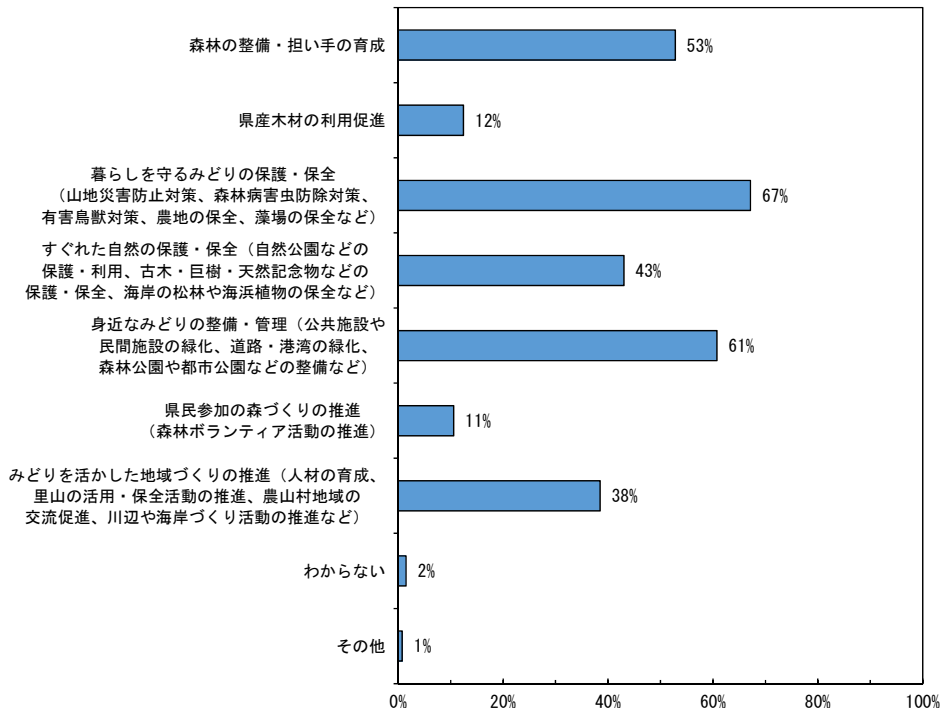
「自然観察や自然探求の場として活用する」と答えた方が最も多く(52%)、次いで「環境教育や体験学習などを通じて子どもの情操教育の場として活用する」(42%)、「快適な生活空間の形成に活用する」(40%)の順となっており、いずれの調査時も、この3項目を選択する割合は高い。



(4) 県や市町が実施すべき施策について

(重要と考えるものを、9つの答えの中から3つまで選択)

「暮らしを守るみどりの保護・保全」と答えた方が最も多く(67%)、次いで「身近なみどりの整備・管理」(61%)、「森林の整備・担い手の育成」(53%)、「すぐれた自然の保護・保全」(43%)、「みどりを活かした地域づくりの推進」(39%)の順となっている。

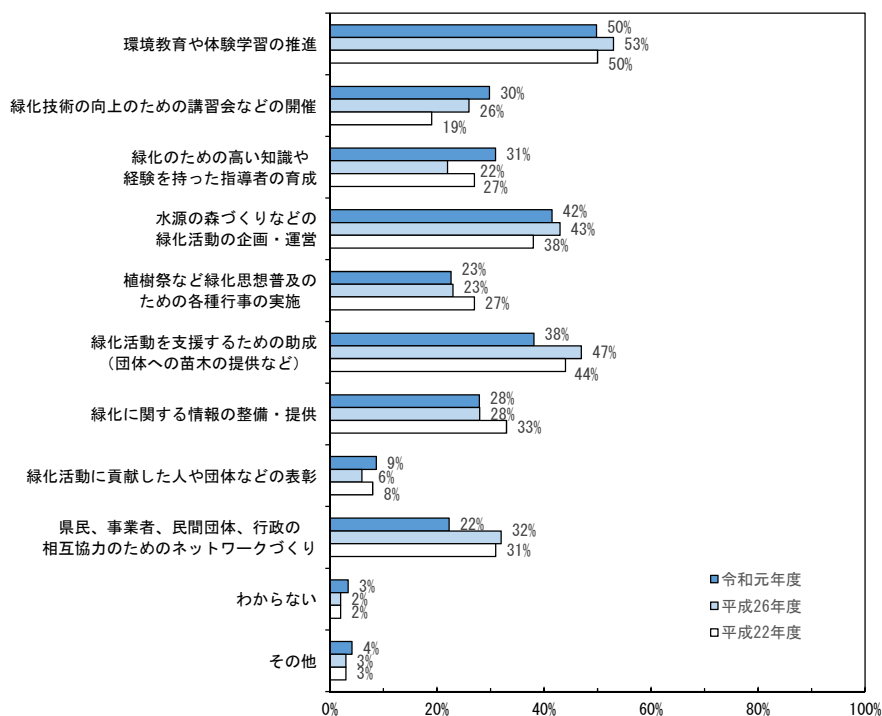


(5) 緑化活動を進めるための県や市町の役割について

(どのようなことをする必要があると考えるかを、11の答えの中から3つまで選択)

「環境教育や体験学習の推進」と答えた方が最も多く(50%)、次いで「水源の森づくりなどの緑化活動の企画・運営」(42%)、「緑化活動を支援するための助成(団体への苗木の提供など)」(38%)の順となっている。

いずれの調査時も、この3項目を選択する割合は高い。

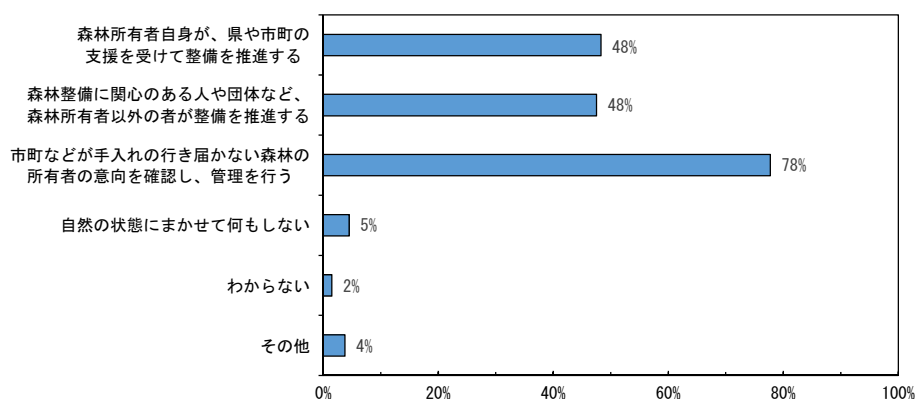


(6) 手入れが行き届かない森林の整備について

(どのようにすべきと考えるかを、6つの答えの中から2つまで選択)

「市町などが手入れの行き届かない森林の所有者の意向を確認し、管理を行う」と答えた方が最も多く(78%)、次いで「森林所有者自身が、県や市町の支援を受けて整備を推進する」(48%)、「森林整備に関心のある人や団体など、森林所有者以外の者が整備を推進する」(48%)の順となっている。

「自然の状態にまかせて何もしない」と答えた方は少なく、手入れが行き届かない森林については、整備が必要であると考えている人が多い。

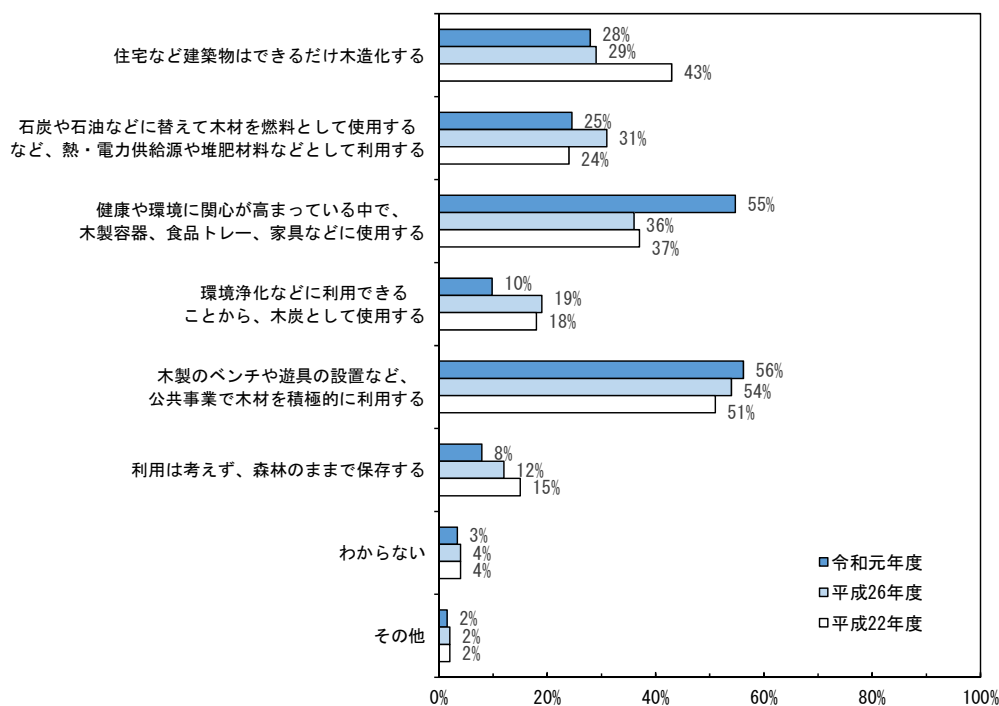


(7) 地球温暖化防止に貢献する木材利用について

(木材の利用をどのように進めるかについて、8つの答えの中から2つまで選択)

「木製のベンチや遊具の設置など、公共事業で木材を積極的に利用する」と答えた方が最も多く(56%)、次いで「健康や環境に関心が高まっている中で、木製容器食品トレー、家具などに使用する」(55%)、「住宅など建築物はできるだけ木造化する」(28%)、「石炭や石油などに替えて木材を燃料として使用するなど、熱・電力供給源や堆肥材料などとして利用する」(25%)の順となっている。

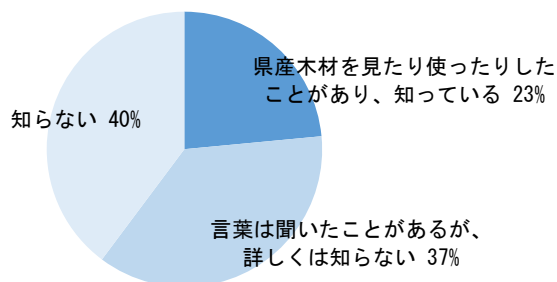
いずれの調査時も、「木製のベンチや遊具の設置など、公共事業で木材を積極的に利用する」と答えた方が多いが、今回の調査では、「健康や環境に関心が高まっている中で、木製容器食品トレー、家具などに使用する」と答えた方も、過去の調査より多くなっている。



(8) 県産木材の利用について

(県産木材を知っているかどうかについて、3つの答えの中から1つ選択)

「知らない」と答えた方が最も多く(40%)、次いで「言葉は聞いたことがあるが、詳しくは知らない」(37%)となっており、「県産木材を見たり使ったりしたことがあり、知っている」と答えた方は少ない(23%)。

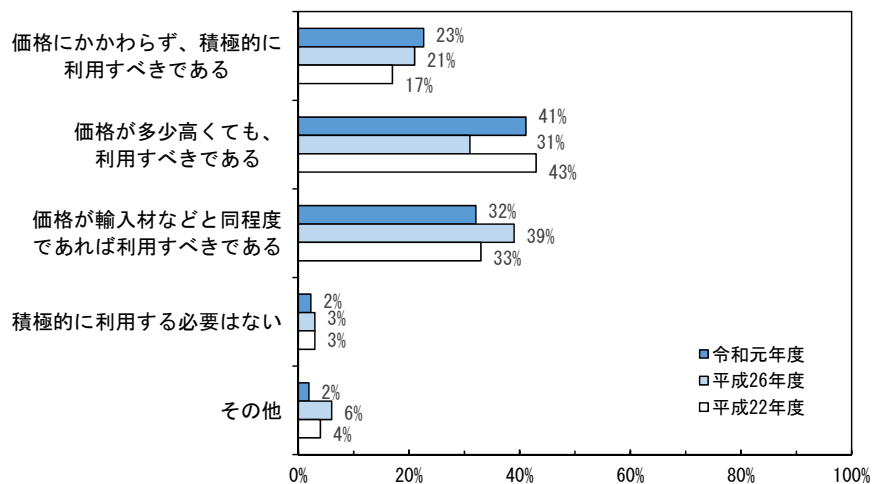


(9) 県産木材の利用について

(県産木材を住宅や公共施設等で利用することをどう思うのか、5つの答えの中から1つ選択)

「価格が多少高くても、利用すべきである」と答えた方が最も多く(41%)、次いで「価格が輸入材などと同程度であれば利用すべきである」(32%)、「価格にかかわらず、積極的に利用すべきである」(23%)の順となっている。

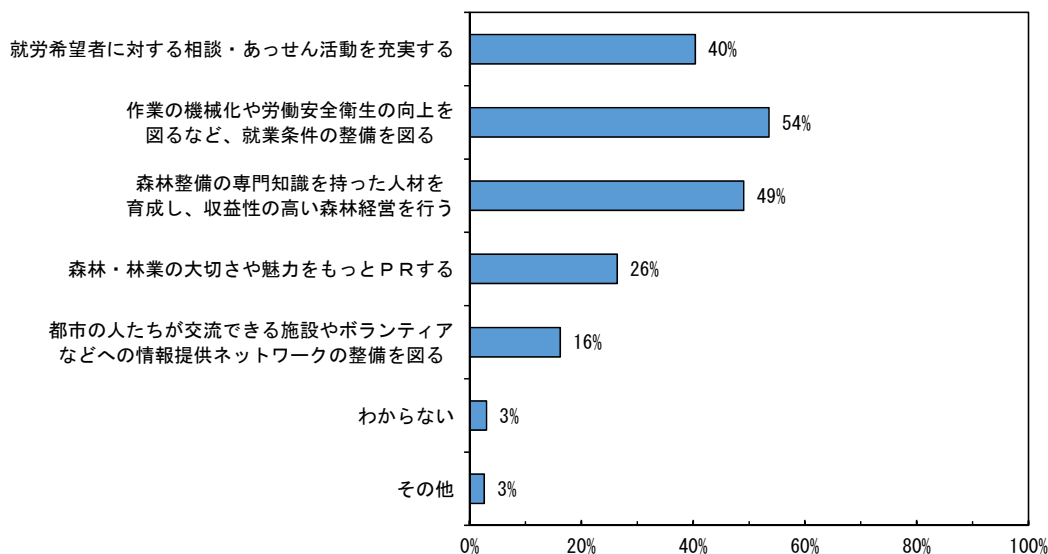
いずれの調査時も、「積極的に利用する必要はない」と答えた方は少なく、県産木材を利用すべきであると考えている方が多い。



(10) 中山間地域の活性化、林業の担い手の確保について

(どのような対策を充実させるべきと考えるのかを、7つの答えの中から2つまで選択)

「作業の機械化や労働安全衛生の向上を図るなど就業条件の整備を図る」と答えた方が最も多く(54%)、次いで「森林整備の専門知識を持った人材を育成し、収益性の高い森林経営を行う」(49%)、「就労希望者に対する相談・あっせん活動を充実する」(40%)の順となっている。

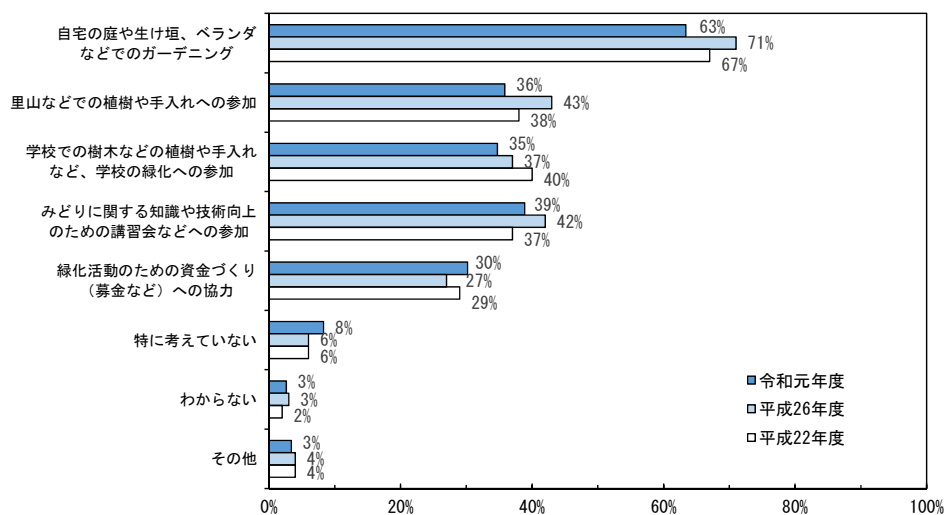


(11) 緑化活動への参加について

(今後行いたいと思う緑化活動を、8つの答えの中からいくつでも選択)

「自宅の庭や生け垣、ベランダなどでのガーデニング」と答えた方が最も多く(63%)、次いで「みどりに関する知識や技術向上のための講習会などへの参加」(39%)、「里山などでの植樹や手入れへの参加」(36%)、「学校での樹木等の植樹や手入れなど、学校の緑化への参加」(35%)の順となっている。

いずれの調査時も、この4項目を選択する割合は高い。



(12) 森林ボランティア活動への関心について

(森林の手入れのためのボランティア活動への関心について、4つの答えの中から1つ選択)

「関心があり、参加したいが、今は参加していない」と答えた方が最も多く(53%)、次いで「関心がなく、参加したくない」(19%)の順になっている。

いずれの調査時も、「関心が高く、参加している」と答えた方は少ない。

